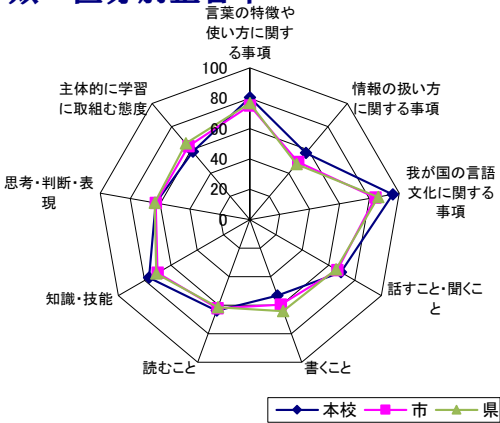


宇都宮市立横川中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.4	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	57.4	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	95.6	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	69.3	66.5	65.5
	書くこと	53.3	59.6	64.2
観点	読むこと	63.9	62.2	61.5
	知識・技能	76.6	70.2	71.1
	思考・判断・表現	62.9	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	58.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は80.4%で、県より3.7ポイント上回っている。 ○「主語と述語について理解している。」では、県の正答率を4.6ポイント上回っている。 ○漢字の読み・書きでは、全て県の正答率を上回っている。 ○言葉の学習においても、全て県の正答率を上回り、「漢字のへんやつくりを理解している。」では、県の正答率を9.7ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読みについては、国語科の授業だけでなく、総合的な学習の時間の調べ学習や日常生活においても扱い、更に定着を図っていく。 ・「宮っ子ステップアップシート」や「漢字オリンピック」などを通して、今後も繰り返し漢字の読み書きを練習させ、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は57.4%で、県より9.6ポイント上回っている。 ○「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している。」情報と情報の関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。」の2つの問題について、県の正答率を上回っている。 ○「国語辞典の使い方を理解している。」では、正答率が65.6%で、県より14.4ポイント上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している。」という記述式の問題については、無解答が7.8%となっている。	・示された文型に合わせて短文を書く活動などを取り入れ、記述式の解答に慣れるようにしていく。 ・説明文の学習では、キーワードとなる言葉に線を引くなど、中心となる語や文を見付ける活動を意識して取り入れ、要約する力を更に伸ばしていく。日々取り入れる。活動回数を増やし、要点を見付けることができる力を高める。 ・国語科だけではなく、社会科や総合的な学習の時間などでも、収集した情報を短文でまとめる活動をさらに取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は95.6%で、県より9.7ポイント上回り、「漢字の読み・書き」「言葉の学習」のすべての分野で県の正答率を上回っている。 ○特に、「漢字のへんやつくりを理解している。」では、県の正答率を9.7ポイント上回っている。	・新出漢字の学習では、今後も漢字のへんやつくりについて触れ、文字の構成について意識付けていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は69.3%で、県より3.8ポイント上回っている。 ○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている。」の正答率は、91.1%と、県よりも11.1ポイント上回っている。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉えている。」の正答率は、94.4%と、県よりも4.2ポイント上回っている。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話している。」の記述式の設問は、正答率は、66.7%と県より3.2ポイント低く、無回答が8.9%となっている。	・国語科だけでなく学級活動や他教科に話し合い活動を意識的に取り入れ、理由や立場を明確にして意見を述べるよう意識付けていくことで、話し合いの仕方を身に付けていくようにする。 ・伝え方マニュアルやヒントカードを用意して、児童が理由を挙げて話すことに困難を感じた場合は、活用して話すことができるように習慣付けていく。
書くこと	●平均正答率は53.3%で、県より10.9ポイント下回っている。 ●自分の考えや理由を明確にして書くことや、指定された行数や段落構成に合わせて書くことに課題がある。 ●どの設問でも、無解答が25.6%となっている。	・学校行事など様々な活動で、書く活動を多く取り入れる。生活文だけでなく、報告文、レポートなど多様な文章形式を書く機会を増やす。 ・文字数や段落構成など指定された書き方で、自分の思いや意見を文章にまとめる活動を充実していく。 ・手本を視写する活動を通して、書き方を身に付けさせる。
読むこと	○平均正答率は63.9%で、県より2.4ポイント上回っている。 ○物語文の「文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。」の設問では、県より6.9ポイント上回っている。 ●物語文の「場面の様子について、叙述を基に捉えている。」の選択式の設問では、正答率が18.9%と低く、県より3.4ポイント下回っている。	・物語文では、叙述に基づいて場面の様子を正確に捉えられるよう、双方をよく照らし合わせながら指導していく。 ・学校図書館の「チャレンジブック」を活用し、いろいろな分野の本に触れさせていく。 ・5W1Hを日頃の授業で意識させながら場面の移り変わりを把握できる力を高めさせる。